

(第1面)

産業廃棄物処理計画書	
令和5年5月23日	
和歌山市長 様	
提出者 〒641-0007 住 所 和歌山市小雑賀1丁目1番67号 氏 名 大和化成工業株式会社 代表取締役 河内信之 (法人にあつては、名称及び代表者の氏名) 電話番号 073-424-5201	
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事業場の名称	大和化成工業株式会社
事業場の所在地	和歌山市小雑賀1丁目1番67号
計画期間	令和5年4月1日～令和6年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	化学工業 有機化学工業製品製造業
② 事業の規模	製造品出荷額 前年度実績 24億円
③ 従業員数	60名
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 化学反応で発生する廃棄物<ol style="list-style-type: none"><li>1) 廃酸→中間処理業者に委託して混錬による燃料化</li><li>2) 廃油→中間処理業者に委託して焼却処分→灰は簡易埋立</li><li>3) 有機性汚泥→中間処理業者に委託して石灰処理による肥料化</li></ol></li><li>・ 生産に伴う原料の包装容器等の廃棄物<ol style="list-style-type: none"><li>1) 廃プラ→中間処理業者に委託して破碎処理→燃料化</li><li>2) 木屑→中間処理業者に委託して破碎処理</li></ol></li></ul>

## 産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

統括責任者	製造部長
廃棄物担当・役割	保全課長 (イ) 廃棄物全般の管理状況の把握と処理の検討 (ロ) 産業廃棄物管理票の交付、管理 (ハ) 産業廃棄物委託契約の締結 (ニ) 産業廃棄物処理業者の選定及び管理 (ホ) 監督官庁への各種報告

## 産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度 (令和4度) 実績】 合計 3,169 t						
	産業廃棄物の種類	廃酸	有機性汚泥	廃油	廃プラ	木屑	
	排出量	2,789 t	119 t	249 t	2 t	10 t	
	(これまでに実施した取組) (1) 発生抑制に関して工程内リサイクルを推進し、発生抑制を考慮した製造方法を実施し、管理を行う。 (2) 反応条件を検討し、収率アップを図ることで、製品単位あたりの廃棄物量を減少させる。 (3) コンデンサーの能力を向上し、溶媒の回収率を向上する。 (1) ~ (3) を実施する事により廃酸、廃油、有機性汚泥等の発生を抑制する。						
②計画	【目標】 合計 3,011 t						
	産業廃棄物の種類	廃酸	有機性汚泥	廃油	廃プラ	木屑	
	排出量	2,650 t	113 t	236 t	2 t	10 t	
	(今後実施する予定の取組) (1) 上記を引き続き実践すると共に、廃棄物量の数値管理の精度を高め、廃棄物の発生を限りなく少なくし、前年度実績に対して5%削減を目指す。						

## 産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 反応プロセスから発生する廃棄物を分類して委託処理を行う。
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 上記を継続するとともに、分類の精度を高めるように努力する。

## 自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（令和4年度）実績】						
	産業廃棄物の種類	廃酸	有機性汚泥	廃油	廃プラ	木屑	
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	
	(これまでに実施した取組) 特に実施はしていない。						
②計画	【目標】						
	産業廃棄物の種類	廃酸	有機性汚泥	廃油	廃プラ	木屑	
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	
	(今後実施する予定の取組) 今後も実施する予定はない。						

## 自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（令和4年度）実績】						
	産業廃棄物の種類	廃酸	有機性汚泥	廃油	廃プラ	木屑	
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	
(これまでに実施した取組) 特に実施はしていない。							
②計画	【目標】						
	産業廃棄物の種類	廃酸	有機性汚泥	廃油	廃プラ	木屑	
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	
(今後実施する予定の取組) 今後も実施の予定はない。							

## (第4面)

## 自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	<b>【前年度（令和4年度）実績】</b>						
	産業廃棄物の種類	廃酸	有機性汚泥	廃油	廃プラ	木屑	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	
	(これまでに実施した取組) 特に実施はしていない。						
②計画	<b>【目標】</b>						
	産業廃棄物の種類	廃酸	有機性汚泥	廃油	廃プラ	木屑	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	
	(今後実施する予定の取組) 今後も実施の予定はない。						

## 産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	<b>【前年度（令和4年度）実績】</b>						
	産業廃棄物の種類	廃酸	有機性汚泥	廃油	廃プラ	木屑	
	全処理委託量	2,789 t	119 t	249 t	2 t	10 t	
	優良認定処理業者への処理委託量						
	再生利用業者への処理委託量						
	認定熱回収業者への処理委託量						
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量						
	(これまでに実施した取組) 特に実施はしていない。						

②計画	【目標】						
	産業廃棄物の種類	廃酸	有機性汚泥	廃油	廃プラ	木屑	
	全処理委託量	2,650 t	113 t	236 t	2 t	10 t	
	優良認定処理業者への 処理委託量						
	再生利用業者への 処理委託量						
	認定熱回収業者への 処理委託量						
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量						
	(今後実施する予定の取組) 今後も実施の予定はない。						
※事務処理欄							

(第6面)

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
  - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
  - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
  - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が6以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。